



S.Setoguchi

THE TOKAI STAKES

第42回 東海ステークス (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 38,000,000円 15,000,000円 9,500,000円 5,700,000円 3,800,000円
付加賞 574,000円 164,000円 82,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

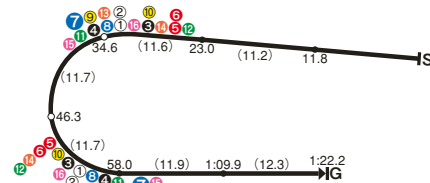
3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳54^{kg}、4歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2024.7.20以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬3^{kg}増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、牝馬限定GⅡ競走またはGⅢ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増、2024.7.19以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

2025.7.27 中京 晴・良 ダ1400m (国際) (確定)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	ヤマニンウルス	牡	5	57	武 豊	1:22.2	2-2	35.7	582(-2)	7.5④	斉藤崇史(栗東)	114
2	⑧	インユアパレス	牡	4	57	川田将雅	3½	6-6	35.7	486(+2)	6.0③	須貝尚介(栗東)	107
3	②	ビダーヤ	牡	4	57	坂井瑠星	1½	8-7	35.8	496(+2)	3.6①	矢作芳人(栗東)	104
4	④	オメガガネス	牡	5	57	岩田康誠	½	11-10	35.6	504(±0)	10.5⑤	安田翔伍(栗東)	103
5	⑩	サンライズフレイム	牡	5	57	菱田裕二	クビ	10-10	35.8	518(-2)	4.1②	石坂公一(栗東)	
6	⑨	コンクイスタ	騾	5	57	松山弘平	¾	6-7	36.3	476(-8)	11.7⑧	吉岡辰弥(栗東)	
7	⑬	リジル	牝	4	55	田口貴太	2	1-1	37.4	484(-8)	67.5⑬	奥村 豊(栗東)	
8	⑥	アルファム	牝	6	55	団野大成	½	16-13	35.9	462(-4)	21.1⑥	佐々木昌三(栗東)	
9	⑨	ダノンスコーピオン	牡	6	59	幸 英明	1	14-13	36.2	468(+7)	56.0⑩	福永祐一(栗東)	
10	⑪	サンライズホーク	騾	6	57	吉村誠之助	1¼	13-13	36.5	516(+5)	16.8⑦	牧浦充徳(栗東)	
11	④	エートラックス	牡	4	58	A.バテル	アタマ	4-4	37.4	514(-2)	24.1⑨	宮本 博(栗東)	
12	⑤	イグザルト	牡	6	57	御神本訓史	クビ	14-13	36.4	512(+6)	104.2⑪	荒山勝徳(大井)	
13	⑩	ヴィクティファルス	騾	7	58	亀田温心	1¼	11-12	36.8	484(±0)	217.7⑫	池添 学(栗東)	
14	①	ロードエクレール	牡	7	57	高杉史朗	2½	2-3	38.2	484(-2)	36.2⑫	斎藤 誠(美浦)	
15	⑨	ライツフォル	牡	5	57	小沢大仁	クビ	4-4	38.1	496(+2)	40.4⑪	高橋義忠(栗東)	
16	①	アドバンスファラオ	牡	5	57	松若風馬	3	8-7	38.1	498(+8)	80.4⑫	森 秀行(栗東)	

単勝⑦750円(4^{kg}) 複勝⑦270円(4^{kg}) ⑧190円(3^{kg}) ⑨160円(2^{kg}) 枠連④-⑧3,110円(13^{kg})
馬連⑦-⑧2,920円(12^{kg}) ワイド⑦-⑧1,100円(13^{kg}) ②-⑦790円(6^{kg}) ②-⑧500円(3^{kg})
馬単⑦-⑧6,610円(22^{kg}) 3連複②-⑦-⑧2,970円(4^{kg}) 3連単⑦-⑧-⑨19,390円(34^{kg})



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
34.6 - 46.3 - 58.0 47.6 - 35.9

アラカルト

- ・武豊騎手はインティで制した19年に続く東海S3勝目。J R A重賞は本年3勝目、通算366勝目
- ・斉藤崇史調教師は東海S初勝利。J R A重賞は本年4勝目、通算26勝目
- ・ジャスタウェイ産駒はJ R A重賞通算10勝目
- ・5歳馬の勝利は21年オーヴェルニュに続く通算16回目
- ・ヤマニンウルスの馬体重582^{kg}は14年ニホンピロアワーズの馬体重544^{kg}を更新する本競走優勝馬の最高馬体重記録
- ・非抽選馬 3頭(エミサキホコル、サトノルフィアン、メイクラীব)

ヤマニンウルス *Yamanin Ours*

牡 鹿毛 2020.5.21生
北海道新冠町 錦岡牧場生産
馬主・土井肇氏 栗東・斉藤崇史厩舎
馬名意味・冠名+クマ(仏)

ワンオブアクラインUSA系 F10-D

ジャスタウェイ 鹿毛 2009	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA アイリッシュダンス
	シビル 鹿毛 1999	Wild Again シャロンUSA
ヤマニンパビオネ 芦毛 2008	スウェプトオーヴァーボードUSA 芦毛 1997	End Sweep Sheer Ice
	ヤマニンメルティ 黒鹿毛 1996	ジェイドロバリーUSA ワンオブアクラインUSA

5代までのインブリード：Mr.Prospector M4×M5

INTERVIEW

村山大河氏(錦岡牧場)

いい頃のウルスが戻ってきたと思いました

前走の負け方が気になっていたので期待と不安が半々でした。しかし3、4コーナーからの行きっぷりを見て、いい頃のウルスが戻ってきたと思いました。去年は期待していたチャンピオンズCでの除外と、名古屋大賞典6着という結果にとってもショックを受けたので、1年ぶりとなる今回の勝利は本当に嬉しいです。また大きなところを目指して頑張ってほしいです。



N.Inaba

リスタートの一步を踏み出した。雌伏の時期を乗り越えたジャスタウェイ産駒が、7着に敗れた後、3カ月の休養を挟んで態勢を立て直し、初めてプリンカーも着用して臨んだこの日は抜きん出た強さと速さをアピール。雌伏の時期を乗り越えたジャスタウェイ産駒が、リスタートの一步を踏み出した。

2歳8月の初陣は2着馬に4秒3もの大差をつけて圧勝。衝撃的なデビューを皮切りに、プロキオンSまで無傷の5連勝を飾った本馬だが、その後は4戦して3着が1回とスランプに陥っていた。それでも4月のアンタレスSで7着に敗れた後、3カ月の休養を挟んで態勢を立て直し、初めてプリンカーも着用して臨んだこの日は抜きん出た強さと速さをアピール。雌伏の時期を乗り越えたジャスタウェイ産駒が、リスタートの一步を踏み出した。

父ジャスタウェイ

北海道浦河町 南社台コーポレーション白老ファーム生産 中央、首、仏22戦6勝(天皇賞(秋)^{G1}、ドバイデューティフリー・首^{G1}、安田記念^{G1}、中山記念^{G2}、アーリントンC^{G2}、ジャパン^{G1}2着)、最優秀4歳以上牡馬、15年から供用〔代表産駒〕**ダノンザキッド**(ホープフルS^{G1})、**テオレマー**(JBCレディスクラシック^{J1})、**ガストリック**(東京スポーツ杯2歳S^{G2})、**エーボス**(フィリーズレビュー^{G2})、**マスターフェンサー**(名古屋グランプリ^{J1})、**ヴェルテックス**(名古屋グランプリ^{J1})、**ヤマニンウルス**(本馬)、**アドマイヤジャスタ**(函館記念^{G2})、**アウールアウェイ**(シルクロードS^{G2})、**ロードマイウェイ**(チャレンジC^{G2})、**コレベティール**(京都金杯^{G2})、**ヴェロックス**(若葉S・L、若駒S・L、皐月賞^{G1}2着、日本ダービー^{G1}3着)、**アールリングウェイ**(エルフィンS・L)、**ハーフバック**(オーロC・L)、**ボッドボレット**(すみれS・L)

母ヤマニンパビオネ

北海道新冠町 錦岡牧場生産 中央24戦4勝(米沢特別2回)(15 牝父ブラックタイド)ヤマニンブルーベル(16 牝父ダイワメジャー)中央10戦2勝ヤマニンブルニエ(17 牝父ゴールドシップ)中央5戦0勝、地方54戦2勝**ヤマニンサンバ**(18 牝父ディーブインパクト)中央23戦3勝(飛鳥S、カシオペアS・L3着、アンドロメダS・L3着、ケフェウスS³3着)、バーレーン1戦0勝 ⑧ヤマニンアンフィル(19 牝父ダイワメジャー)中央26戦4勝(佐世保S、知多特別)⑨**ヤマニンウルス** 本馬(20 牝父ジャスタウェイ)中央9戦6勝(東海S^{G2}、プロキオンS^{G2}、雅S、コーラルS・L3着)、地方1戦0勝獲得総賞金128,072,000円

ヤマニンアルリフラ(21 牝父イスラボニータ)中央13戦4勝(北九州記念^{G2}、淀S、伊良湖特別、ジングルベル賞)⑩(22 不受胎)ヤマニンソロイスト(23 牝父サトノダイヤモンド)(24 牝父エビファネイア)(25 牝父バンサラッサ)

祖母ヤマニンメルティ

北海道新冠町 錦岡牧場生産 中央2勝、地方0勝。12年用途変更ヤマニンビトレク(07 牝父タニノギムレット)中央0勝、地方19勝ヤマニンパビオネ(08 前出)

新装レースで素質馬が1年ぶりの勝利

昨年の新潟で導入された「競走時間帯の拡大」を新たに実施するなど、様々な暑熱対策が講じられた夏の東京開催がスタート。その開幕週に組まれた東海Sは今年から、1月に移設されたプロキオンSの条件(別定、ダート1400m)を受け継ぐ短距離重賞に生まれ変わった。新装初年度のレースを彩ったのは、デビュー当初から将来を嘱望されてきた素質馬の復活劇。昨年のプロキオンS(小倉のダート1700m以下で実施)の覇者ヤマニンウルスがスランプのトンネルを抜け出し、1年ぶりの勝利を掴んだ。先遣役を務めたのは外枠から意欲的に飛び出したリジル。五分のスタートを切り、序盤は4番手につけたヤマニンウルスの武勇騎手は3コーナーから自然体で進出し、2番手に上がる。3勝クラスを卒業後、オープン特別で3回の2着を記録している3番人気のインユアパレスは中国を追走。1番人気に支持された4連勝中の新星ビダーヤは直後の内、ダートの1400m戦6勝の実績を誇る2番人気のサンライズフレイムは後方の外で脚を溜めた。案外手応えを保ったまま、前に迫った武騎手は直線の坂の上りでリジルを競り落として先頭へ。4コーナーで離された後続からはインユアパレスとビダーヤが伸びてきたものの、ビハインドを覆すほどの脚は使えず、勝負の大勢は早々に決した。ラスト2台のラップは11秒9-12秒3。最後までしっかりスピードを持続させたヤマニンウルスが、ライバルの反撃をまったく寄せ付けずにゴールを駆け抜けた。